

当施設における 高齢者の転倒の現状

～誰でもできる転倒予防対策を考える～

サン・ラポール南房総

羽山 由輝





はじめに

- 高齢者施設において転倒対策は永遠の課題である
- 当施設において転倒が増加傾向？

現状を把握し、改善するために本課題に取り
組む





方法①

対象者：当施設入居者249名

2022年の転倒記録より抽出



方法①の結果

転倒者は52名

転倒者の平均年齢は87.94歳

転倒による骨折は10名



方法②

- ➡ 対象者：当施設に入居していて認知機能に問題なし
- ➡ 転倒予防に関して興味をお持ちの方 36名
(72～94歳：平均年齢83.92歳)
- ➡ 直接聴取（1年間の転倒の有無）



方法②の結果

転倒者は14名

転倒者の平均
年齢84.58歳



方法①と参考文献の比較

当施設

➡ 転倒割合：約 20%

➡ 骨折に至った例：約 20%

参考文献

➡ 年間転倒発生率 3 人に 1 人

➡ 骨折に至る症例 6 ~ 12%



方法②と参考文献の比較

当施設

- ➡ 約 40%の方が転倒歴あり
- ➡ 骨折に至った例なし

参考文献

- ➡ 年間転倒発生率 3人に1人
- ➡ 骨折に至る症例 6～12%



統合と解釈

- 前述の結果より当施設において転倒の現状は、参考文献とほぼ相違ないものとなった。
- よって、現在、当施設においてだけ特別に転倒率が上昇しているものではないと考える
- ただし、入居者の平均年齢は増加傾向にあるため、一般的な観点より転倒率は徐々に上昇していくと考える。



転倒予防対策例（エビデンスのある方法）

運動（グループ・個別）

家屋評価・改修

精神作動薬漸減

頸動脈洞過敏症に対するペースメーカー

初回白内障手術

積雪地帯での靴の工夫

通常足診療に加えて足の運動などの多面的介入

家庭医への内服処方指導



今後の展望（施設における転倒予防対策）

専門職以外でも行える（汎用性高い）効果のある転倒予防対策を模索したい。

2023年5月より当施設入居者に対して様々な角度から転倒や転倒予防に関する知識を月1回ペースで提供している。（知識の提供による転倒防止対策）





おわりに

- 今までの研究やメタアナリシスから転倒予防に関する知識は集積されつつあるが、現在、私が行っている試みが転倒予防対策として利用できることを期待する。



参考文献

- Jpn J Rehabil Med 2018 ;
898-904
転倒の疫学と予防のエビデンス 萩野 浩
- 日本転倒予防学会誌 Vol. 1 ; 11-20
2015
高齢者の転倒予防の現状と課題 大高 洋平





ご視聴ありがとうございました

